

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成29年8月8日

【四半期会計期間】 第65期第1四半期(自平成29年4月1日至平成29年6月30日)

【会社名】 TDCソフトウェアエンジニアリング株式会社

【英訳名】 TDC SOFTWARE ENGINEERING Inc.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 谷上俊二

【本店の所在の場所】 東京都渋谷区代々木三丁目22番7号

【電話番号】 03 6730 8111(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役管理本部長 大垣剛

【最寄りの連絡場所】 東京都渋谷区代々木三丁目22番7号

【電話番号】 03 6730 8111(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役管理本部長 大垣剛

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第64期 第1四半期 連結累計期間	第65期 第1四半期 連結累計期間	第64期
会計期間	自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日	自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日	自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日
売上高 (千円)	5,104,924	5,065,426	22,991,820
経常利益 (千円)	371,729	273,281	1,690,468
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (千円)	229,979	149,748	1,165,363
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	220,783	267,873	1,394,962
純資産額 (千円)	7,952,294	9,008,643	9,126,322
総資産額 (千円)	11,973,982	13,164,599	13,615,912
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	19.09	12.43	96.75
潜在株式調整後 1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	66.4	68.4	67.0

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 売上高には、消費税等は含まれておりません。
- 3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中における将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

#### (1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間（平成29年4月1日～平成29年6月30日）におけるわが国経済は、企業収益や雇用環境の改善が続くなかで、各種政策の効果もあって緩やかな回復基調が続いています。しかしながら、海外の政治情勢の不確実性や金融資本市場の変動の影響等に留意する必要があります。

情報サービス産業におきましては、企業の競争力強化に向けた戦略的投資需要の高まり、人工知能、IoT（Internet of Things）やRPA（Robotic Process Automation）等の技術によるビジネス分野への利活用拡大からIT投資需要は増加基調にあります。

このような環境の中で、当社グループは、平成28年4月から平成31年3月における中期経営計画のもと、「お客様から最も信頼されるパートナー企業の実現」を目指し、お客様の繁栄への寄与に努めております。また、お客様に密着し広範囲な工程や業務分野のサービスを提供するビジネスモデル（パートナー型ビジネス）と業務・技術に特化し、幅広く複数のお客様にサービスを提供するビジネスモデル（ソリューション型ビジネス）を強化し、そこから生じた利益を将来の事業基盤に必要不可欠となる人材、知財へ集中的に投資し、継続的成長を実現するための財産づくりを行う戦略を基本戦略に掲げております。

当第1四半期連結累計期間の業績は、各事業分野の成長戦略が堅調に推移したものの売上高は5,065百万円（前年同期比0.8%減）となりました。また、利益面につきましては、将来の事業拡大に向けた投資や採用、人材育成活動の強化によってコストが増加した結果、営業利益は252百万円（前年同期比29.2%減）、経常利益は273百万円（前年同期比26.5%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は149百万円（前年同期比34.9%減）となりました。

#### (2) 経営成績の分析

##### 売上高

売上高の分野別の内訳は次のとおりであります。

##### <アプリケーション開発分野(金融)>

アプリケーション開発分野(金融)は、金融業向けに業務アプリケーション開発の提供を行っております。当第1四半期連結累計期間はクレジット業向け大型システム開発案件が堅調に推移しており、売上高は前年同期比0.6%増収の2,880百万円となりました。

##### <アプリケーション開発分野(法人)>

アプリケーション開発分野(法人)は、流通業、製造業、サービス業や公共向けに業務アプリケーション開発の提供を行っております。当第1四半期連結累計期間は、エネルギー業向けや流通業向けの開発案件等が堅調に推移しており、売上高は前年同期比3.2%増収の1,022百万円となりました。

##### <ソリューション分野(インフラ・ネットワーク)>

ソリューション分野(インフラ・ネットワーク)は、ITインフラの環境設計、構築、運用支援、ネットワーク製品開発、ネットワークインテグレーション等の提供を行っております。当第1四半期連結累計期間は、官

庁向けのITインフラ構築案件がピークアウトしたこと等から、売上高は前年同期比16.6%減収の729百万円となりました。

<ソリューション分野（パッケージ等）>

ソリューション分野（パッケージ等）は、ストレスチェック支援ソリューション「M-Check+」、タレントマネジメントシステム「HuTaCT」、PaaS型クラウドサービス「Trustpro」等のクラウドサービスやBI/DWH、ERP/CRMに関連するソリューションの提供を行っております。当第1四半期連結累計期間は、「Trustpro」に関連する案件やDWH、CRMに関連する案件等が堅調に推移しており、売上高は前年同期比14.8%増収の433百万円となりました。

(単位：百万円)

分野	前第1四半期 連結累計期間		当第1四半期 連結累計期間		前年同期比 増減率
	金額	構成比	金額	構成比	
アプリケーション開発分野(金融)	2,861	56.1%	2,880	56.8%	+0.6%
アプリケーション開発分野(法人)	990	19.4%	1,022	20.2%	+3.2%
ソリューション分野(インフラ・ネットワーク)	874	17.1%	729	14.4%	16.6%
ソリューション分野(パッケージ等)	377	7.4%	433	8.6%	+14.8%
合計	5,104	100.0%	5,065	100.0%	0.8%

売上総利益

売上総利益は、前年同期と比較して12百万円減少し、1,062百万円（前年同期比1.2%減）となりました。

営業利益

営業利益は、前年同期と比較して104百万円減少し、252百万円（前年同期比29.2%減）となりました。

経常利益及び税金等調整前四半期純利益

経常利益及び税金等調整前四半期純利益は、前年同期と比較して98百万円減少し、273百万円（前年同期比26.5%減）となりました。

親会社株主に帰属する四半期純利益

親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同期と比較して80百万円減少し、149百万円（前年同期比34.9%減）となりました。

(3) 財政状態の分析

流動資産

当第1四半期連結会計期間末の流動資産は、前連結会計年度末と比較して600百万円減少し、10,391百万円となりました。

その主な増減要因は、現金及び預金が835百万円、仕掛品が419百万円増加したものの、受取手形及び売掛金が1,882百万円減少したことによります。

固定資産

当第1四半期連結会計期間末の固定資産は、前連結会計年度末と比較して149百万円増加し、2,773百万円となりました。

その主な増減要因は、無形固定資産が23百万円減少したものの、投資有価証券が179百万円増加したことによります。

流動負債

当第1四半期連結会計期間末の流動負債は、前連結会計年度末と比較して395百万円減少し、3,846百万円となりました。

その主な増減要因は、短期借入金が649百万円、預り金が325百万円増加したものの、未払費用が837百万円、未払法人税等が310百万円減少したことによります。

固定負債

当第1四半期連結会計期間末の固定負債は、前連結会計年度末と比較して62百万円増加し、309百万円となりました。

その主な増減要因は、繰延税金負債が52百万円増加したことによります。

純資産

当第1四半期連結会計期間末の純資産は、前連結会計年度末と比較して117百万円減少し、9,008百万円となりました。

その主な増減要因は、利益剰余金が235百万円減少したことによります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間の研究開発費の総額は30百万円であります。

なお、当第1四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動に重要な変更はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	50,000,000
計	50,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成29年6月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成29年8月8日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	12,556,800	12,556,800	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数は100株 であります。
計	12,556,800	12,556,800		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成29年6月30日	-	12,556,800	-	970,400	-	242,600

##### (6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

## (7) 【議決権の状況】

## 【発行済株式】

平成29年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式511,700		
完全議決権株式(その他)	普通株式12,014,800	120,140	
単元未満株式	普通株式 30,300		一単元(100株)未満株式
発行済株式総数	12,556,800		
総株主の議決権		120,140	

(注) 1 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が800株含まれており、当該株式に係る議決権8個を議決権の数から控除しております。

2 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社保有の自己株式32株が含まれております。

## 【自己株式等】

平成29年6月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) TDCソフトウェアエン 지니어リング株式会社	東京都渋谷区代々木 三丁目22番7号	511,700		511,700	4.1
計		511,700		511,700	4.1

## 2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(平成29年4月1日から平成29年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成29年4月1日から平成29年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。



## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	5,557,919	6,393,502
受取手形及び売掛金	4,572,941	2,690,322
仕掛品	148,151	568,087
繰延税金資産	594,647	594,827
その他	118,119	144,376
流動資産合計	10,991,779	10,391,116
固定資産		
有形固定資産	178,491	169,455
無形固定資産	309,929	286,854
投資その他の資産		
投資有価証券	1,576,996	1,756,303
関係会社株式	140,000	140,000
繰延税金資産	473	473
差入保証金	395,020	394,584
その他	23,221	25,811
投資その他の資産合計	2,135,711	2,317,173
固定資産合計	2,624,132	2,773,483
資産合計	13,615,912	13,164,599
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	914,529	805,711
短期借入金	401,000	1,050,000
未払金	211,468	224,471
未払費用	1,837,850	1,000,550
未払法人税等	428,227	117,920
未払消費税等	226,315	204,302
役員賞与引当金	89,400	22,600
受注損失引当金	22,623	
その他	111,056	421,015
流動負債合計	4,242,471	3,846,571
固定負債		
繰延税金負債	121,414	173,596
資産除去債務	61,385	61,555
その他	64,318	74,231
固定負債合計	247,118	309,384
負債合計	4,489,589	4,155,956

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	970,400	970,400
資本剰余金	820,450	820,450
利益剰余金	7,065,397	6,829,593
自己株式	223,172	223,172
株主資本合計	8,633,075	8,397,271
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	493,247	611,372
その他の包括利益累計額合計	493,247	611,372
純資産合計	9,126,322	9,008,643
負債純資産合計	13,615,912	13,164,599

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
売上高	5,104,924	5,065,426
売上原価	4,029,047	4,002,437
売上総利益	1,075,877	1,062,988
販売費及び一般管理費	719,042	810,428
営業利益	356,835	252,559
営業外収益		
受取利息	184	163
受取配当金	13,577	19,633
その他	2,541	1,576
営業外収益合計	16,302	21,372
営業外費用		
支払利息	681	651
その他	726	-
営業外費用合計	1,408	651
経常利益	371,729	273,281
税金等調整前四半期純利益	371,729	273,281
法人税等	141,749	123,532
四半期純利益	229,979	149,748
非支配株主に帰属する四半期純利益	-	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	229,979	149,748

## 【四半期連結包括利益計算書】

## 【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
四半期純利益	229,979	149,748
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	9,195	118,124
その他の包括利益合計	9,195	118,124
四半期包括利益	220,783	267,873
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	220,783	267,873
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

## 【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

当第1四半期連結累計期間  
(自平成29年4月1日至平成29年6月30日)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

## (四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費（無形固定資産に係る償却費を含む。）は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日)
減価償却費	20,000千円	31,868千円

## (株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)

## 1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年6月29日 定時株主総会	普通株式	240,904	40	平成28年3月31日	平成28年6月30日	利益剰余金

## 2 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日)

## 1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年6月29日 定時株主総会	普通株式	385,442	32	平成29年3月31日	平成29年6月30日	利益剰余金

## 2 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

## (セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)及び当第1四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日)

当社グループは、開発から運用・管理までの一貫したシステム開発サービス及びシステム製品の販売等を一体とするシステム開発事業を営んでおり、当社グループにおけるセグメントは「システム開発」のみの単一セグメントであるため、記載を省略しております。

## (1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第1四半期 連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)	当第1四半期 連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
1株当たり四半期純利益金額	19円9銭	12円43銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	229,979	149,748
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益(千円)	229,979	149,748
普通株式の期中平均株式数(株)	12,045,204	12,045,068

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## (重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 2 【その他】

該当事項はありません。



## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成29年 8 月 7 日

TDCソフトウェアエンジニアリング株式会社  
取締役会 御中

### 有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 神代 勲 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 石川 喜裕 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているTDCソフトウェアエンジニアリング株式会社の平成29年4月1日から平成30年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間(平成29年4月1日から平成29年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成29年4月1日から平成29年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

#### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

#### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、TDCソフトウェアエンジニアリング株式会社及び連結子会社の平成29年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。